

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(125)(HP 収載) ー最新アナログシステムでの試聴(125)ー

1. 始めに

前報(124)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。さらにスピーカーアキュライザーの接続をバナナプラグに置き換え、電解コンデンサーを追加し、電磁波吸収テープ NRF-005T をバナナプラグに巻いています。音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は行進曲と舞曲です。

LONDON STS 15275/9

モーツアルト 行進曲と舞曲集

Willi Boskovsky 指揮 Vienna Mozart Ensemble

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

LONDON 盤ということで、DECCA、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。行進曲やメヌエットなどの舞曲併せて13曲が5盤に収録されています。

演奏は、モーツアルトのこういった曲には定評のある Willi Boskovsky 指揮 Vienna Mozart Ensemble ですので、定番の演奏といった印象です。

音質は、勇壮な行進曲や華やかなメヌエットなどの舞曲の表情を積極的に表現しています。行進曲では打楽器や金管が勇壮な雰囲気盛り上げ、舞曲では弦楽の優雅なメロディラインが展開します。

本タイトルの盤の紹介で、昨年来聴いてきたモーツアルトフアンの故人から譲り受けたアナログ盤の試聴が完了となります。初めて耳にする曲やレーベルも多く、ジャンル毎に系統的に聴いてきましたので、大変良い勉強になりました。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレック、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、上記の行進曲や舞曲の特徴がよく把握できます。

以上/